

「デジタル空間における情報流通の健全性確保の在り方に関する検討会」(第15回)・

ワーキンググループ(第11回)第2部

1 日時 令和6年3月28日(木)13時30分～15時00分

2 場所 オンライン開催

3 出席者

(1) 構成員

宍戸座長、生貝構成員、石井構成員、越前構成員、奥村構成員、落合構成員、後藤構成員、澁谷構成員、増田構成員、水谷構成員、森構成員、安野構成員、山口構成員、山本(健)構成員、山本(龍)構成員、脇浜構成員

(2) オブザーバー団体

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会、一般社団法人新経済連盟、一般社団法人セーフティーインターネット協会、一般社団法人ソーシャルメディア利用環境整備機構、一般社団法人デジタル広告品質認証機構、一般社団法人テレコムサービス協会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会、一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟、一般社団法人日本新聞協会、日本放送協会、一般社団法人MyData Japan、一般財団法人マルチメディア振興センター、国立研究開発法人情報通信研究機構

(3) オブザーバー省庁

内閣官房、内閣府、警察庁、消費者庁、デジタル庁、文部科学省、経済産業省

(4) 総務省

湯本大臣官房総括審議官、西泉大臣官房審議官、田邊情報通信政策課長、大澤情報流通振興課長、恩賀情報流通適正化推進室長、内藤情報流通適正化推進室課長補佐、上原情報流通適正化推進室専門職

(5) ヒアリング関係者

X(Twitter Japan株式会社) ニック氏、キャスリーン氏、金子氏

4 議事

(1) 関係者からのヒアリング

(2) その他

【宍戸座長】 それでは、午後の部の開始時間になりましたので、改めまして、デジタル空間における情報流通の健全性確保の在り方に関する検討会の第15回会合及びワーキンググループ第11回会合の合同会合を再開させていただきます。

御多忙のところ御出席をいただき、誠にありがとうございます。午前中から引き続き御参加いただいている構成員の皆様には、御礼を重ねて申し上げます。

議事に入ります前に、事務局より連絡事項の説明をお願いいたします。

【高橋係長】 事務局でございます。

まず、本日の会議は公開させていただきますので、その点御了承ください。

次に、事務局よりウェブ会議による開催上の注意事項について御案内いたします。

本日の会議につきましては、構成員及び傍聴はウェブ会議システムにて実施させていただいております。本日の会合の傍聴につきましては、ウェブ会議システムによる音声及び資料投影のみでの傍聴とさせていただいております。事務局において傍聴者は発言ができない設定とさせていただいておりますので、音声設定を変更しないようお願いいたします。

本日午後の資料は、本体資料として、資料15-2-1から資料15-2-3までの3点御用意しております。万が一お手元に届いていない場合がございますら、事務局までお申しつけください。傍聴の方につきましては、本検討会のホームページ上に資料が公開されておりますので、そちらを閲覧ください。

また、ヒアリングシート回答にはURLが記載されているものもありますので、御参加の皆様におかれましては、適宜アクセスしながら御確認ください。

なお、本日は、江間構成員、クロサカ構成員、曾我部構成員、田中構成員は御欠席予定、石井構成員は会議途中から御退席予定と伺っております。

最後に、本日の会議につきまして、報道関係者より冒頭カメラ撮りの希望がございましたので、構成員の皆様におかれましては、差し支えない範囲でカメラをオンにさせていただきますようお願いいたします。

ありがとうございます。それでは、開始させていただきます。

御協力ありがとうございました。これでカメラ撮りを終了いたします。これ以降の撮影は御遠慮ください。

事務局からは以上です。

【宍戸座長】 ありがとうございました。

写真撮影にも御協力いただき、感謝申し上げます。

それでは、早速議事に入らせていただきます。午前の会合に引き続きまして、午後の会合もプラットフォーム事業者様からのヒアリングとなります。このラウンドでは、X（Twitter Japan株式会社）様からのヒアリングとなります。

それでは、XのNick様、Kathleen様、金子様から、通訳を込みで25分で御発表いただきたいと思います。その後、60分の質疑の時間を設けたいと考えております。通訳は質疑応答パートについてありと伺っております。

なお、5分前、1分前には事務局よりアナウンスいたしますので、時間厳守で御発表いただくように、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、準備でき次第、お始めください。

【X（金子氏）】 宋戸先生、ありがとうございます。

宋戸先生、また、検討会構成員の皆様、お時間いただきまして、ありがとうございます。総務省の皆様にも、もろもろ御調整いただきまして、ありがとうございました。

私、X（Twitter Japan）で公共政策部門に従事しております金子と申します。よろしくお願いいたします。

まず、画面のほうを投映させていただきます。

まず、一昨年の10月末に経営者が替わりまして、大きな変革が始まりました。今年のプラットフォームサービスに関する研究会におきましては、資料の提出等ができず、申し訳ございませんでした。本日のプレゼンテーションは、先ほど宋戸先生からも御説明いただきましたとおり、私のほうから日本語でさせていただきます。質疑応答に関しては、通訳さんに御協力いただく形で、日英で進行させていただければと思います。限られた時間ではございますが、弊社の偽・誤情報に関する取組についてかいつまんで御説明させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日、先ほども御紹介いただきましたとおり、Nick、Kathleen、私の3名で参加しております。

本日のアジェンダなんですけれども、こちらのようにXの御紹介、ルール、ポリシー、2023年の取組、能登半島地震、今後に向けた取組というような形で御紹介させていただきます。

まず、弊社のミッションなんですけれども、Xの使命は、公共の会話を促進し保護すること、つまりインターネットのタウンスクエアになることというふうに考えております。

その上で、Xでは、全ての利用者が自由に、安心して公共の会話に参加できるように、ルールを設けております。

また、テクノロジーを強化し常に向上させることで、規模に応じて対応できるように取り組んでおります。

また、Xでは、人々が他者とつながり、信頼できる情報を見つけ、自由かつ安全に自己表現ができる場を提供したいと考えております。

話は変わりましたが、日本の現状のXの利用状況なんですけれども、この小さなmがマネタイズブルということで、広告を主張することができる、つまり、b o t等ではないという、裏側に人間がいるという意味なんですけれども、マネタイズブル・デイリー・アクティブ・ユーザーが約4,000万、マネタイズブル・マンスリー・アクティブ・ユーザーが約6,700万という状況になっております。この数字、若干古いんですけれども、このような形でなっております。

また、利用状況に関しましては、年齢構成比は、左側にありますように、若年からシニアまで広くいる状況で、エリア構成比も人口分布とほぼ同様というような状況になっております。

ルールとポリシーというところですが、まずコンテンツと安全性の考え方でけれども、ピラミッド構造で、上から削除、真ん中に制限、そして、土台として留まるという、大きく3層の構造によって成り立っております。

一番上の削除ですが、これは違法である場合はその該当地域において閲覧できないようになったり、内容によっては、アカウントの凍結、もしくは削除しないと再び投稿ができないといったような措置が取られます。

続いて、真ん中の制限ですが、これは「Freedom of Speech, not Reach」という考え方に基づいております。つまり、削除ほどの対応でない場合に、発信した本人に分かる形で投稿にラベルがつけられ、これがリーチに制限がかかるという状況になります。これは今年の4月から始まった取組になります。

そして、土台の留まるというパートなんですけれども、こちらは、X上のコンテンツの利用は、大部分が利用規約やルール、そしてポリシーに違反することのない健全なものというふうに考えております。

Xのルールは、こちらのページのリンクから御確認いただけるんですけれども、大きく3つ、安全性、プライバシー、信頼性に分けることができまして、今回の偽・誤情報に関わ

るものとしては、この中の下の黒の4つ、全部で5つあるんですが、そのうちの4つを御紹介させていただければと思います。

まず、プラットフォームの操作とスパムに関するポリシーということで、情報を人為的に拡散または隠蔽したり、Xのユーザー体験や、Xによるプラットフォームの操作の防止策を操作または侵害する行為に関与したりするサービス利用を禁じたものということで、例えば、大量、過剰、膨大な返信、@ツイート、または、ダイレクトメッセージを一方向的に送信するというようなことがこれに当たります。

続きまして、誤解を招くアイデンティティや虚偽のアイデンティティに関するポリシーということで、これは他の利用者を欺く目的で、個人、集団、組織の身元情報を流用・詐称するというようなことを禁じているというようなものになります。昨今取り上げられるような、有名人等を騙った虚偽広告等も、当然これの対象となってまいります。

続きまして、3つ目に、合成または操作されたメディアに関するポリシー。利用者を欺いたり、混乱させたりして、損害をもたらす可能性のある、合成または操作されたメディアや誤解を招くメディアが禁止されております。例えば、後ほど御説明させていただく能登半島地震に関する投稿の中で、東日本大震災の映像を用いているものなどが一部あったのですが、こういったものは誤解を招くメディアとして、対象となってまいります。

最後に、市民活動の阻害に関するポリシーということで、選挙期間中に、市民活動への参加を抑圧したり、市民活動に関する日時、場所、参加方法について誤解を招いたり、現実世界の暴力を引き起こしたりするおそれのあるコンテンツをポストまたは共有するなど、選挙またはその他の市民活動の操作や妨害を目的にXのサービスを利用することを禁じます。これは、そのままの内容になっております。

続きまして、2023年における取組について御説明させていただきます。

2023年は、当然体制が変わったということもございまして、基盤づくりの1年となりました。こちらに記載されているもの以外にも、本当にたくさんいろんなアップデートはあったんですけども、この中で、本日は特に偽・誤情報に関わる部分で、まだ御説明させていただいていないものを重点的に御紹介させていただければと思います。

まず、おすすめタイムラインのアルゴリズム開示です。これは、今右側にタイムラインがあるんですけども、おすすめとフォロー中というふうにあるんですが、おすすめ、ここをタップしていただいている場合のアルゴリズムに関して御説明させていただきます。

これは既にアルゴリズム開示を行っておりまして、こういった要素が、どのように関わり

合って、こういった行動によって、これが起きているのかということ、GitHub上にコードを載せております。どなたでも御確認がいただけるような状況になっております。こういった形で、なぜこれがおすすめに挙がってくるのかという部分をどなたでも御確認いただけるという状況ですので、その辺、改めて御認識いただければと思います。

また、一応なんですけれども、このフォロー中のタブのところ、ここに関しましては、もう既に時系列順という形で並んでおります。実は、さきの能登半島地震の際も、タイムラインを時系列で確認したいというようなお声がたくさんあったんですけれども、その際にも改めて周知をさせていただきました。このフォロー中のタブを御覧いただくと、これは全て時系列順で並んでいるというような状況になっております。

続きまして、コミュニティノートです。

これ、改めて、一つ具体的な例を用いて御説明させていただければと思うんですけれども、例えば、こんな投稿がありました。「イカをさばいていたらこんな大きなプラスチックが。イカは軟体動物なので骨なんてないはず。海洋プラスチック問題が深刻化していつていまずね」と。

これ、ネタ的な投稿なんですけれども、これを一般ユーザーと協力者、コミュニティノートの協力者が見た際にどのような形になるかといいますと、一般ユーザーは、これにリプをつけたりリポストしたりしかできないんですけれども、コミュニティノートの協力者、これはボランティアに協力者になりたいという方が申出をさせていただいてなれるというものなんですけれども、コミュニティノートの協力者は、これはちょっとバックグラウンドの追加情報が必要だと思った場合に、コミュニティノートを書く、もしくは、既にコミュニティノートが書かれている場合は、これを評価するというようなことが可能になります。

コミュニティノートを書くというのは、この左側にあるようなノートを追加ということで、この投稿が誤解を招く可能性があると思う理由を教えてくださいというものをこの中から選び、ノートを作成し、それに何らか参照が可能なレファレンスとなるリンクを追加するというような手続となっております。

そういったものが既にどなたかからノートが作られている状況になりますと、今度は、この右側にあるように、提案されたコミュニティノートの評価するというものが協力者に対しては見えるようになります。ですので、このタイミングでは、一般ユーザーはコミュニティノートがついていない状態なんですけれども、協力者は提案されたコミュニティノート进行评估するというような、ちょっと違った見え方になってまいります。

十分に多様な協力者から一定の評価が集まると、このような形で、閲覧したユーザーが他のユーザーにとって役立つと思う背景情報を追加しましたというようなコミュニティノートが、一般ユーザーにも協力者にも見えるというような形になってまいります。

このコミュニティノート、Xにおけるコミュニティ主導のアプローチということで、不正確で誤解につながる情報に対処するアプローチとして、昨年春先ぐらいから日本では協力者を募り始めました。一気にばっつと拡大してしまうとこれは不測の状況になるかもしれないということで、少しずつ拡大しております。今、日本語での協力者の数は約3万名ほどおります。

スピードに関しましては、これは日本の事例ではないんですけども、昨年10月のイスラエル・ハマスの際には、様々なコミュニティノートが作られたんですけども、大体コミュニティノートが作られてから閲覧されるまでに、平均値が5時間程度というふうに聞いております。

また、コミュニティノートを誰が書いているのか。これ、Xのアカウントを持っている人でないとコミュニティノートは作れないんですけども、コードネームというものが与えられて、誰がコミュニティノートを書いているのかというのはXのアカウントとはひもづけることができない状況になっておりますので、完全にそのコードネームでの匿名性が担保されたというような形で、安全性を持って記載いただくことができるようになっております。また、誰が書いたかではなく、何が書かれているのかを重視することも、非常に重要なポイントと考えております。

ここから、視点の多様性みたいなところに関しては、イーロン・マスクの具体的な投稿なんですけれども、ここでは様々な視点が重要だというようなことを言っております。以前に評価したノートに基づいて、異なる統計的バイアスを持つ人々が、つまり、前はAさんは賛成して、Bさんは参考にならなかったと言っているような状況がある中で、このノートは意味のあるノートだというふうに、以前に反対意見を持った人たちが、このノートについては意見が一致したと。そういったことがたくさん集まった場合に、初めて意味のあるノートとして全ユーザーに表示されるというようなアルゴリズムを取っております。また、こういった様々な視点があるということが、コミュニティノートの成功の鍵だということも言っております。

こちら、公平性／透明性に関しましては、コミュニティノートの対象が、それが世界的な指導者だろうと、大手広告主だろうと、一切例外はないというようなことだったり、コード

やデータが全て公開されている。また、自分がそれを意図的にいじることもしかないというようなことを言っております。

これはイーロンの投稿ではないんですけども、自分が「いいね」とか、リポストした後にコミュニティノートがついた場合、エンゲージした人に対して、後から通知が飛びますよというようなことも実装されております。

あと、これは、何らかの静止画や動画が掲出された投稿にコミュニティノートがついた場合、同じメディアが拡散した際には、自動的にコミュニティノートがつきますよというような機能になっております。

すみません。駆け足になりますが、続きまして、クリエイターレベニューシェアに関して御説明させていただきます。

資格を得る方法としては、以下の3つの条件を満たす必要がありますよということで、Xプレミアムまたは認証組織に加入していること、つまり、サブスクに加入しているということですね。あと、過去3か月間の投稿の累計で少なくとも500万のオーガニックインプレッションを有しているということ。そして、少なくとも500人のフォロワーを有しているというような状況があります。

広告レベニューシェアでは、X上で投稿したコンテンツへの返信に表示される広告の認証済みユーザーのオーガニックインプレッションから収益を共有できますと。これ、非常に複雑な日本語だなというふうに私も思うんですけども、これは日本語が複雑なだけでなく、実はその仕組みそのものが若干複雑なので、それを図でちょっと補足説明をさせていただきます。

例えば、これは条件を満たしていると思われるユーザーさんの投稿なんですけれども、こういった投稿がなされた場合に、良いものというのはいろいろ返信がつきますよと。この返信欄に、この赤いところに、実はこれ、広告枠なんです。これは広告枠なんですけれども、これを認証したサブスクユーザーが見た場合、レベニューシェアの対象になりますよということになります。逆に、これを認証していないユーザーが見ても、これはレベニューシェアの対象になりませんし、そもそも、インプゾンビとか、インプレゾンビとかいろいろ言われますが、返信がつかないと広告枠がそこに設置されませんので、そういう点では、しっかり返信がつくような投稿であって初めてレベニューシェアが成立するというような状況になっております。また、コミュニティノートがついた投稿は、この対象の外になります。

能登半島地震です。

最初に少し御説明させていただきたいんですけども、例えばこれは被災地にてということ、こういう様々な無償提供させていただきましたのような投稿だったりとか、例えば被災地近くで、これはジョージア大使ですけども、新幹線で一夜を明かすことになりましたというような投稿だったりとか、例えば箱根駅伝、箱根駅伝中止とか言っている人はこれを見ろみたいな感じで、過去の箱根駅伝の紹介をされたりとか、全然その文脈とは関係なしに、こんなときからもうこんなにたったんだなというような投稿だったり、あとは、こんなときだからこそということで、例えば御飯を食べてしっかり寝ることが誰かの助けになりますよとか、こういう猫の投稿だったり、こんなときだからこそそのライブだったりとか、地元がしんどいことになっているんで気分転換兼ねておいしい話をするみたいな投稿。または、これは手前みそみたいな話になるんですけども、ツイッター、こういう形で有益だよとか、例えば、1月1日地震の後にNERVさんにAPIの無償提供をさせていただいたんですけども、こういったことを投稿していただいたりとか、つまりは、大部分というのは基本的にはヘルシーな投稿ばかりだなというふうに弊社としては考えております。

ただ、その上で、能登半島地震に関する偽・誤情報を含む投稿の主なカテゴリーというふうに考えた場合に、以下の4つのようなものがあつたのかなと思います。この辺りの規模感等も含めて、一度御説明させていただければと考えております。

まず人工地震なんですけれども、人工地震という言葉を含むもので、アカウントとしてエクスクルージョン、除外設定をしているものは幾つかあるんですけども、投稿のボリュームとしては大体10万程度ございました。5,000以上のリポストを集めたものは5つのみ、全て人工地震という言説そのものへの注意喚起の投稿で、かつ、リポストの上位50のうち30くらいが陰謀論的な投稿でありました。

代表的な投稿例としてはこういったもので、今回の地震は人工地震だと言っているようなものがトップには来ておりません。ただ、逆に、陰謀論的なものの30の内訳の中で、コミュニティノートがついたものが11、コミュニティノートがさらなる評価待ちが12、コミュニティノートがつかなかったものが7つありました。

コミュニティノートがなかった7件も、他の陰謀論系の投稿と比べると、リポストも非常に少なかった上に、多くが今回の地震を人工地震だというふうに言って、直接的に言及しているものではなかったということもございました。

あと、窃盗団ですね。これも誤情報とかデマ等の一部を除外した形になっているんですけども、これは投稿ボリュームは非常に少なく約200程度、投稿数は限定的で、最もリポ

ストされたものでも1,000を超えるものは1件だけでした。これはやっぱりユーザー側での真偽不明の情報格差に関して、気をつけようというような配慮が働いたのではないかなと考えております。こういったものが代表的な投稿例としてございました。

一番リポストされた投稿そのものは、コミュニティノートはついたものの、広く表示されるまでは至らなかったものの、こういったものが候補のコミュニティノートとして御用意されました。

続きまして、自分への支援要請、いわゆる詐欺といますか、嘘のドネーションみたいなところなんですけれども、350程度ございました。これは実はかなりキャンペーン系とか、申告、こんな支援をしましたよとかというようなものも含んでしまうので、かなり絞っているんですけれども、350から約1,400程度のものが見られたのかなと考えております。

最も多くのリポストを集めた投稿例としては、こういった方のものがございました。この方の投稿は、既に現在は削除されているので、ウェブサイトからの引用になるんですけれども、これ以外大きく拡散されたものはなく、理由としては、ユーザーのリテラシーの高さ(住所が存在しない、前後の関係から怪しい、被災地で大変なのはみんな同じなのに個人に送金するのはどうなの)というようなことからリポストが控えられたのかなと思います。

次の論点とも関わってくるんですけれども、この方はこの投稿は既に削除されていますが、この方の投稿が、こちら、この方のアカウントから発信された内容で、この住所がいわゆる実際存在しない住所だということで、メディアでもうかなり騒がれたものなんですけれども、例えば、この方、捜査機関の方はDMで対応しますというようなことを言われていたりして、その後どういう対応がなされたのか分からないんですけれども、そういったやり取りもあり、プラットフォーム側で何が正しく何が間違っているかを判断するのは非常に難しいなと思う一例という形にもなりました。

救助要請、ここは非常に大きなボリュームもあったかなと思っております。大体2万1,000程度の救助要請がございました。

例えば、代表的な投稿例としては、先にちょっと御説明させていただきますと、こういったものがございました。これは実は全て現在は救助後に削除されているため、ウェブサイトから引用したものなんですけれども、例えば、救助された後、元の投稿を消されて、皆さんありがとうございましたというようなことを投稿されたりとか、あと、真ん中の方は、本当に必要な方に救助が行き届くよう、こちらのようなデマ情報は削除していただけないでしょうか、この住所に住む祖母はたんすに潰されておらず、無事救助されておりますと、恐ら

くそういう内容が書かれていた投稿があって、既にその投稿そのものは凍結された、弊社側で凍結作業を行ったということなのですが、こういうような状況があったりします。また、こちらの方も、ニュースで取り上げていただきましたみたいなことを言われていました。

こちらで何が言いたいかといいますと、最もリポストを集めた多くの救助要請は本物だった。一方で、海外のアカウントで救助要請の文面をコピー・アンド・ペーストしている投稿が多く見られたというのは、これは事実でございます。しかも、日本でもそういった投稿が散見されました。これによって、被災者が自らの救助要請の投稿を削除した後も、これらのコピーされた文章が放置されている事例が多く見られたという状況がございます。また、実際被災した人が同じ内容を投稿されているということもございました。

海外の投稿に関してはリポスト数が少ないということは、ユーザーのリテラシーの高さが示唆されるものの、ただ一方で、緊急時の情報発信の方法に関しては、ICTリテラシーの向上の観点からの検討余地もあるなというふうに考えております。

すみません。こちら辺は資料に記載しておるので見ていただければと思いますが、その他の取組という形になっております。

今も申し上げましたとおり、様々な方法はあると思うんですけども、特にこのコミュニティノートに関する理解向上、また、協力者を募っていくということが非常に重要なことと思っております。このプロダクト担当VPのキース・コールマンも、例えば、日本向けのスタディセッションみたいなことを開催することも可能だというふうに言ってくれておりますので、また、そういったニーズがあるようでしたら、ぜひ検討させていただきたいと思っております。

駆け足となりましたが、弊社からは以上となります。ありがとうございました。

【宋戸座長】 ありがとうございます。Xさんならではの御発表をいただいたと思います。大変感銘を受けたところです。

それでは、ただいまの御発表につきまして、御質問、御意見のある方は、チャット欄で私に御発言希望を御連絡ください。どうぞよろしく願いいたします。

澁谷構成員、お願いします。

【澁谷構成員】 澁谷です。どうぞよろしく願いいたします。

私のほうから、細かくなると3つになるかもしれませんが、大きく分けると2つございます。

1つ目は、レベニューシェアのところ、収益化のところなんですけれども、収益化停止、

無効化に関するポリシーの日本国内の運用状況につきまして、偽・誤情報に関するポリシー違反を理由に収益化が停止された、無効化されたという事例の件数とか、主な事例等がありましたら、教えていただければと思います。

これに関連しまして、2点目なんですけれども、特に、今御説明いただきましたように、災害時のような時は、ふだんはそんなに無害なものであっても、非常時には混乱をもたらしてしまったり、救助活動の妨げになるといった、いろいろな別の影響というものもあると思います。その辺りのポリシーのところ、災害時、あるいは、選挙など、特殊な事情に応じた柔軟な対応だったり、特殊な対応があったら教えていただければと思います。

3つ目は、日本国内の研究者へのAPIの公開等に関して、現在いろいろ御検討はいただいているということで、ヒアリングシートのほうは理解いたしました。どのような条件を整えば公開に行けるのか、あるいは、そこでの課題等がありましたら教えてください。

以上です。よろしくお願いいたします。

【X (Nick氏)】 それでは、まず私のほうから、今御質問いただいたものにつきまして、1番目、そして、3番目の御質問について御回答申し上げます。

まず1番目のレベニューシェアに関してなんですが、こちらについての具体的な、例えば、アカウントを停止したといったような具体的な定量的な統計につきましては、まだこちらのポリシー自体が具体的に導入いたしましてからかなり日が浅い、新しいポリシーということもありまして、現状で皆様方に本日共有させていただける具体的な定量的な統計というものはございませんけれども、ただし、やはりこういう問題のあるこういった投稿によって、これを金銭的に利用していくということはあることではございませんし、このポリシーを厳格に運用することによって、より高いクオリティのコンテンツが掲載されるということの大きなインセンティブになるというように今後も期待をいたしております。

それから、3点目の御質問いただきましたAPIの公開についてでございますが、こちらについては、具体的に条件であったり、我々の想定している条件等については、これは書面という形で御用意はできますので、こちらについては、後ほど御提供させていただいたものを御参照いただきたいと思います。

1点、ここ一、二年、特に一つ新しい項目といたしまして、具体的にAIのトレーニングにこういったものを活用していくということ、こういったAIのモデルへの活用というところが、ここは研究者の皆様方についても非常に興味がおありの部分であるかと思っておりますけれども、新しい1つのテーマとして、このAPIの公開に関しましても、ここについては

慎重に我々も考えていかなければいけない、新しい項目であろうかというふうに認識をいたしております。

ありがとうございました。

2点目の災害の分については、お願いいたします。

【X (Kathleen氏)】 それでは、私から先ほどの2点目の御質問について御回答申し上げたいと思います。

御質問いただいたとおり、災害、あるいは、こういう選挙期間、こういった部分については、御指摘いただいたとおり、通常とは違う事態であったり状況だと考えておりますので、ここにつきましては、ここに合わせた特別な対策を基本的には切り分けて実施をするというところを行っております。

私ども、このアプローチといたしましては、3段階の、3 T i e r という呼び方をしておりますけれども、3層に分かれた対策をしております、これは人為的な対応、ポリシーの設定、それから、プロダクト上の対応と、この3階層で対応いたしております、人員の部分につきましては、ここについては災害あるいは選挙等に関しましては、具体的に専任のこういったチームを編成いたしまして、24時間、常に無休でこういった部分についての対応、ここにはマシンラーニングのモデルを活用したり、こういったものも含めてということでございますけれども、稼働し、十分な対策を取れるような体制を取っております。

それから、ポリシーにつきましては、先ほど申し上げましたように、選挙あるいは災害が発生したときに対応する専用のポリシー、あるいはルールを具体的に策定しております。

具体的には、例えば、選挙については、こういう選挙関連の、あるいは政治的な関連と思われる広告であるとか、こういったものにつきましては、こういったルールを適用する。ここについても、こういったポリシーに対応する、運用するための人材を配置し、ここもマシンラーニングなどのテクノロジーも活用して対応していく。

そして、プロダクトでございますけれども、プロダクトについても、ここを改変し、強化をするということによって、この機能を強化していく。例えば、ここもやはりマシンラーニングであったり、あるいは、ヒューリスティックなという言い方をしておりますけれども、こういった形で、十分に具体的にどのようなコンテンツがどのようなものなのかということの判定も含めて、対応できるようなプロダクト上の改定なども鋭意行うということで、人為的な対応、それから、ポリシーの設定、プロダクトの改定、こういった3層にわたる取組を、緊急事態であったり選挙等については別途行っているという状況でございます。

ありがとうございました。

【宍戸座長】 ありがとうございました。

この後、さらに9人の構成員から手が挙がっていますので、御質問はできるだけ簡潔に、できれば1問でお願いいたします。

それでは、山口構成員、お願いします。

【山口構成員】 国際大学の山口です。ありがとうございました。

御社の取組について、非常に分かりやすく教えていただきました。また、事前に多くの質問があったかと思いますが、お忙しい中、真摯に取り組んでいただいたことに感謝申し上げます。

また、日本の具体的な事例について、御社サービス上の具体的な傾向、数値などの分析を公表していただいたことに重ねてお礼申し上げます。非常に興味深かったです。

その上で、座長には大変申し訳ないんですが、私から4点お伺いしたいことがございまして、簡潔に。

【宍戸座長】 では、簡潔な質問でお願いします。

【山口構成員】 簡潔に、はい。

まず1つ目、コミュニティノート、非常に有意義で透明性高いと思います。このコミュニティノートを実際に導入した前後で、偽・誤情報の流通・拡散状況に何らかの影響があったか、言えるものがあればお教えてください。これが1点目。

2点目、昨今日本では、SNS上で有名人の偽動画・音声を活用した広告が問題となっております。生成AIで作られたと思われる偽広告について、特に国内における対策状況を教えていただけますと幸いです。

3点目、生成AIが作成した画像・動画について、ラベルづけを各社発表しております。御社からはまだないようですが、今後どのような取組を予定しているか、お教えてください。

4つ目、御社の透明性への取組につきまして、特に日本ローカルの透明性レポートを定期的に出してほしいと考えております。その上で、現在お聞きしたいのは、特に選挙関連で違反の認知、執行件数、違反の存在を外部から指摘された件数とそれに応じた件数等々について、日本国内で何か言える数字がございましたら、ぜひ教えていただけますと幸いです。

以上が私の質問です。

【X (Nick氏)】 それでは、まず私から、今いただきました4つの質問のうち、私のほうから御回答させていただけるものをまず御回答し、あとは補足を別の者からさせていた

だきたいと思います。

まずコミュニティノートについてでございますけれども、こちらについては、先ほども御紹介いたしましたとおり、効果自体については、具体的に検証できつつあると考えておりまして、フォローアップ自体が35%、あるいは、具体的なシェアであったり、こういったものが大幅に低下するというようなところも見てとれておりますので、この部分については、さらに推移を見ていきたいと思いますが、効果は基本的には定量的にも表れているという認識をしております。

生成AIについての御質問もいただきました。生成AIについては、具体的にはラベリングの御質問もいただいているんですが、これは私ども非常に高い関心を持って状況を今見守っておりますし、いろんな取決めがされているということも認知をしております。

あと、いわゆるマニピュレーテッドメディアと呼んでいる形のメディアの問題であったり、ここについては非常に重要な問題だと認識しておりますが、現在、私ども考えておりますのは、やはり業界ですね。これもいわゆるSNSであるとかという限定的な業界ではなくて、具体的な生成AIに関係する、そういったAI自体をモデリングを行っている、こういったものを提供している企業等も含めた大きな枠組みでの各業界がしっかりと連携をしていくということが、いわゆるウォーターマーキングと言われているような対策についても、ここをいかに広範に連携していけるかというところが非常に重要だと考えておりまして、その一つの基本的に基盤となつてまいりますのが、ミュンヘンでのセキュリティカンファレンスですね。安全保障会議、こちらで具体的に、こういう選挙なども含めた部分でのコミットメントというものが合意されておりますので、こういったものを軸として、いかに広範に業界全体、各業界横断的に対応していくかという視点が非常に重要ではないかということで、これについても、そういった視点からも取り組ませていただいております。

あともう一つは透明性ですね。4点目としていただきました透明性については、様々な施策を含めて、これはもう非常に重要であり、これは日本でも当然ですし、これが具体的にはプラットフォームのユーザーの皆様方、関連の皆様方の安全性というところの担保にもつながってまいりますので、ここにつきましても、留まることなく、鋭意強化を進めてまいりたいというふうに現在では考えております。

あとは、ほかの者から補足があれば、今回答をしてもらいたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【X（金子氏）】 ありがとうございます。

山口先生、ありがとうございます。2点目の著名人の肖像を使ったような広告みたいなことに関しましては、2つの取組を御紹介させていただくことができるかなと思います。

まず1点目は、弊社では、広告を御利用いただく際に認証プロセスというものを設けておまして、必ず事前にベリフィケーションプロセスを経ないと広告を実施することができないというような形になっております。ただ、これも完全ではないものの、ペイメント情報が必ずひもづくような形になるので、非常に重要なプロセスの一つかなと考えております。

もう一つは、直近3月22日から始まったんですけれども、特定カテゴリーにおける広告運用に関しましては、事前に目視での広告審査を強化するというようなことになりまして、幾つかのカテゴリーに関連するところで既に始まっておりますし、今後も始まっていく予定になっております。

【宋戸座長】 山口先生からの御質問は、これでよろしいですか。

【山口構成員】 大丈夫です。ありがとうございました。

【宋戸座長】 ありがとうございました。

残り9人の御質問ありますので、構成員の皆様、進行に御協力をお願いいたします。

それでは、水谷構成員、お願いします。

【水谷構成員】 関西大学の水谷です。私から質問2点あったんですけど、時間の関係で、1点に絞らせていただきます。

私からの質問は、コミュニティノートに関するものです。コミュニティノートの取組は、コンテンツのチェックという点で、ボトムアップな取組だと理解しております。なので、非常に意義深いものだと私も考えています。

ただ、コミュニティノートはボランティアベースで行われているというふうに私は認識していますので、規模が大きくなればなるほど対応が難しくなってくる部分があるのではないかと懸念しています。例えば、ボランティアで、先ほどそれなりの数が参加してくれているという話ではありましたが、やはり量的にカバーし切れなくなってくるのではないかと問題点、あるいは、ボランティアの参加者のインセンティブに関する問題点があるかと思います。御社では、こうしたボランティアベースの取組の限界についてどのようにお考えか、お聞かせください。

以上です。

【X (Nick氏)】 御質問どうもありがとうございます。非常に重要な御質問をいただけたというふうに考えております。

こちらのコミュニティノートにつきましては、この数年という時間軸で、非常にスローなペースで徐々に拡大してきています。この拡大のペースが今スローだというお話を申し上げたのは、まさしく今、先生のほうから御指摘をいただいた問題も包含したものであるというふうに考えておまして、ここは、例えば、ボランティアの皆さんに依存しているということもありまして、ただ、考えられるようなバイアスであったり、こういったものを当然検知し防いでいく。あるいは、返していくということも当然必要になりますので、そういったものも含めて、これまたスローペースで拡大をしてきているわけですがけれども、ここの一つの重要なポイントというのは、私どもはアルゴリズムだと思っております。このアルゴリズムによって、具体的な、言ってみると、我々側のほうから今度はスクリーニングをして、こういったバイアスであったり、こういったものを防いでいくということ、ここが一つ重要になってくるのではないかと思います。

それから、もう一つは、こういった具体的なデータ、特にコードを公開する、パブリッシュするという、これは先ほど申し上げましたけれども、この公開をするということが非常に重要でございます。公開すると同時に、こういったコードであったり、アルゴリズムについても、透明度を持って、トランスペアレントな形で改善をしていくということ、ここが非常に重要だと思います。これによって、具体的なユーザーの皆様、それから、学術関係の各先生方も含めた皆様方に公開し、公開した形で改善をしていくということによって、公正な形でバイアスを避け、さらに、こういった協力者、ボランティアのベースも拡大していくことができるのではないかと考えておりますし、また、公開することによって、常にこれをリアルタイムでモニターをして、問題点については対処がすぐできるような形としていきたいと考えています。

実際には、民主化ということですね。デモクラタイゼーションというところを私どもは旨としておりますけれども、その一方で、我々自身が何らかのこういった問題については、これを守ってガードしていく義務も当然そこにあると考えておりますので、その中で、このアルゴリズム、そして、これを公開し、常に皆様方にモニタリングしていただく中で、公開し、改善していけるような、そういう体制を持つということが、このコミュニティノートにとっても非常に重要なアプローチではないかと私は考えております。

【宍戸座長】 ありがとうございます。

残り時間が限られてきておりますので、申し訳ありませんが、ここから構成員一人一問で手短にお願いいたします。

安野構成員、お願いします。

【安野構成員】 中央大学の安野と申します。大変貴重な御示唆いただきました。どうもありがとうございました。

私からは、ヒアリングシートのクエスチョン6に関連してお尋ねしたいと思います。

こちら、プラットフォームの操作とスパムに関するポリシーによる対応件数が、2023年度に大変増加しているように見えるんですけども、これはどのように解釈すればいいのかということをお尋ねしたいと思います。

まず可能性としては、TwitterからXに変わって、インプレッション数による収益システムに変化したことの影響なのか、あるいは、スパムの拡散が容易になるなどの技術的あるいは社会的な変化などの要因なのか、それとも、運用がより厳格化、あるいは包括的になって該当する件数が増加したのか、何らかの可能性について御示唆いただければと思います。

このうち、また、このプラットフォームの操作とスパムに関するポリシーに反すると分類された投稿の中に、誤情報あるいは虚偽情報に該当する件数というのはどのくらいあったのでしょうか。これについて御回答いただければ幸いです。

【X（金子氏）】 先生、ありがとうございます。そうしましたら、この件に関しまして私のほうから御回答させていただければと思うんですけども。

まず最初に、具体的数字の内訳の中で、どの程度が偽・誤情報に関わるものだったのかという部分は、今ぱっと出せるものもなく、また、偽・誤情報に係るものが、必ずしもこのポリシーによって対応されないケースもありますので、そういった点では、直接的な御参考にならない可能性も多分に考えられるなというふうに思います。

ただ一方で、2022年から2023年に対して、Platform manipulation and spam policyのバイオレーションの数字が一気に上がったのは、これは弊社側でそういったものを、いわゆるバッドアクターをどのように取り締まるかというところの対応をかなり強化したということがございます。

御存じのとおり、イーロン・マスク自身がbotを非常に嫌っているところがありまして、彼のこれにかかる情熱というのはすさまじいものがございます。ですので、さんざんユーザーの皆様から文句を言われたようなこともあったんですけども、例えば、ベリフィケーションのプロセス等、始めるに当たって様々なコメントはありましたが、そういったことが今確実にここに効き始めているのかなと思いますし、ポリシーだったりディテクションの観点でも、AI等を使ったりしながら、確実に数字は強まっているのかなと思います。

やはり同時に、2023年という年が、LLMが非常に躍進した年だったのかなと思って
おりますので、そういった点で、バッドアクターが非常に増えたという外的要因もあったの
かなというふうに考えております。

【安野構成員】 ありがとうございました。

【宍戸座長】 それでは、繰り返しになりますが、手短に簡潔にお願いします。

生貝構成員。

【生貝構成員】 ありがとうございました。1つだけ御質問させてください。

やはりディスインフォメーションのような難しい問題からユーザーや民主主義を守るた
めには、コンテンツモデレーターのヒューマンリソースが極めて重要だと思います。

そうしたときに、去年の10月に御社が出されたトランスペアレンシーレポート、デジタ
ルサービス法に基づいて出されたトランスペアレンシーレポートの中では、ドイツ、フラン
スは50人、80人程度いる一方で、イタリアは2人、オランダやポーランドは1人という
ような具体的な数字も出していただいております。

そうしたときに、現状として、御社で日本語を専門とするコンテンツモデレーターの数は
どのくらいいらっしゃるのかということをお話いただければ幸いです。

また、お答えが難しい場合は、その理由をお話いただければと思いますのと、それから、
もし今後、日本語の人員を増やしていく具体的な予定などがあれば、お話をいただきたいで
す。よろしくお願いたします。

【X (Nick氏)】 まず私のほうから、このDSAという観点からの日本以外の部分での、
今も御指摘のありましたヨーロッパ等の報告書についての部分についてお話をさせていただ
きまして、その後、日本については、また個別に金子さんのほうからお話をさせていただ
きたいと思っております。

まず、今御指摘のあったヨーロッパのモデレーターの各国の人数なんですけど、ここについ
ては、まず各国等で具体的にXがどのような形で利用されているのか、そこでの具体的なポ
スト数であるとか、こういったものを具体的に、あるいは、その利用のされ方であったり、
国ごとにここを分析した上で、各言語に対応したモデレーターの適正配置を行っている
という状況でございます。

ですので、国ごとといっても、例えば、そこで英語という言語での利用がどのくらいある
のかといったことも含めて、ローカルな言語などの利用状況も含めて配置しておりますの
で、そういった意味で、各国での人数での違いが出てきているというふうに御理解いただき

たいと思います。

基本的には、こういった考え方をしております。日本については、それでは、金子さんのほうから御説明いただきたいと思います。

【X (金子氏)】 生貝先生、ありがとうございます。

先日御提出させていただきました資料のほうには具体的な数値を記載しておらず、一旦セキュリティ及びビジネス上の理由からということで公開していないという形に記載させていただいておりますが、世界としては2,000名いるという状況がございます。

ジャパンスペシフィックなところに関しまして、どの程度御共有させていただくことができるかということに関しましては、改めて持ち帰らせていただきますので、すみません、一旦そういう形での回答とさせていただきます。

【生貝構成員】 ありがとうございます。

【宍戸座長】 ありがとうございます。

それでは、石井先生、簡潔にお願いします。

【石井構成員】 中央大学の石井です。質問の機会をいただきまして、ありがとうございます。

私から1点、先ほどヒアリングシートの6番について質問があったところと若干関係する点についてお聞きできればと思います。

プラットフォームの操作とスパムに関するポリシーのところ、コンテンツモデレーションの件数がかなり上がっているという状況を拝見しましたが、他方で、機械的手段のみによって検知・対応したケースになると、それなりに件数が下がっているということになると、今でも人の手がかなり介在しないと評価できない、最終的な評価は難しいということになるのではないかと考えております。現状、機械で検知することについて、技術面で、精度がどの程度満足いくものとなっているのかという評価をお聞きしたいと思います。また、人をどれだけ配置できるかということと関係しますが、課題感ですね。機械的に検知すること、この技術を使うことに関する、現状認識されている課題についてお聞きできればと思います。

すみません。2点になっているかもしれませんが、よろしくお願いします。

【X (Nick氏)】 御質問ありがとうございます。まず私のほうからは、日本ということではなくて、少しグローバルな視点から全体像を最初にお話しさせていただきます。

今御指摘のあった、特にSNSだけではなくて、ひいてはこれは我々ウェブサイト、イン

ターネット全体にかんして、今未曾有の非常に厳しい課題に全てのプレーヤーが直面しているというように考えております。そして、ここには、コスト自体が、これに対処するために膨大なコストが今必要になってきているという状況でございます。これはSNSだけではなくて、例えば、eコマースサイトであったり、あるいは、レビューサイトであったり、ウェブ全体、インターネット全体を取り巻く問題であるというふうに認識しております。

この問題に対処するためには、機械だけ、あるいは、人手だけということではやはり対応が現在できていませんので、基本的には、人に対する人の知識あるいはスキル、それと、機械的な対応というものをやはり組み合わせていく必要があるわけですけれども、特にマシンの検知につきまして重要なのは、より早期の段階でこういったものを検知することがマシンの場合はできるという可能性が高いので、ここをまずマシンを活用し、さらにそれに対して人為的な対応、スキルを組み合わせ、さらにこれに、ここで言っている検知するマシンだけではなく、さらにテクノロジー的なツール、これを人為的なものに組み合わせて最終的に対処していく。

当然、完全なものということは今まだ実現していないと思いますし、もちろん誤検知というようなものもあると思いますが、これは今、例えばバッドアクターという、いろんなものを仕掛けてくる、こういった人たち、あるいはグループに関しては、様々な形でクラウドを利用する、トロールファームをクラウドで構築する、あるいは、それを利用したりということで、そういった広範な形のテクノロジーを利用したエコシステムを介してこういったものを行っているという、これに我々が対峙していくというためには、やはりこういったコストの問題、こういったものの調査、研究にも、ぜひこういったものに対してのコスト、効率というところも含めて考えていく必要があるのではないかと思います、これが今グローバルな視点から見た現状の状況であるということでございます。

【宍戸座長】 ありがとうございます。

それでは、山本健人構成員、手短にお願いします。

【山本（健）構成員】 北九州市立大学の山本です。私からは、偽・誤情報に対するマルチステークホルダーでの連携について御質問させていただければと思います。

X様は、先ほども出ました先月のミュンヘン安全保障会議で技術協定、Tech Accordに署名されていますけれども、その一方で、偽情報に関するEUの行動規範からは離脱されていると理解しています。

この点、他の企業や、あるいは業界、もしくは政府機関との連携について、どのような方

針をお持ちでしょうか。特に、どのような設計、構造の連携であれば参加する意義があるとお考えなのかについて教えていただければと思います。よろしくお願いします。

【X (Nick氏)】 御質問どうもありがとうございます。

まず最初のミュンヘンでの安全保障会議でのコミットメントに対して合意したということなんですが、このミュンヘンの安全保障会議のコミットメントというのは、まずこの会議自体が非常に広範なプレーヤーが参加しているということが一つ申し上げます。これもアドビさんから、SNS関連、それから、AI関連の企業さんも含めて、広範なプレーヤーが参加して、基本的には、ここで答えを出すということをしていないんですね。コミットメント、これはよく見ていただくとお分かりだと思います。

まずはコラボレーションしましょうと。しっかりと協力して、まずその答えを探していく第一歩を踏み出していこうということが、この8つのコミットメントのメッセージだというふうに我々は理解しています。ですので、これについては合意をしたわけです。

その一方で、今度はEUの行動規範のほうなんですが、こちらは、逆に、言ってみると、まず回答ありきということで、これは具体的にはサードパーティのファクトチェッカー、こちらが、極端に言えば、唯一の解決策であると。これに対して歩調を合わせていこうというような形の方向性ですので、我々は、そうではないのではないか。これをよりイノベーティブで、よりクリエイティブな回答があるのではないか。それを我々がやはり広範に協力して回答を見つけていくのが実際本筋ではないかという考えがあったというふうに御理解いただきたいんですね。

ここについては、ファクトチェッカー自体が、具体的にそれについての信憑性であるとか、そこでの選択しているメディアの問題であるとか、こういったものもあろうかと思えますし、こういった何か一つの方向づけだけを行っていくということではなくて、これは我々の業界も、市民の皆さんも、そして、学術関係の先生方も含めて、よりクリエイティブで、よりイノベーティブな回答というのを模索していかない限り、この問題は解決しないというのが我々の考え方です。

そういう意味では、コミュニティノートについてのオプションというのは一つの回答かと思えますけれども、今お話ししたような経緯で、今我々のような状況に至っているというように御理解いただきたいと思っております。

【宍戸座長】 ありがとうございます。

森構成員、お願いします。

【森構成員】 弁護士の森です。よろしくお願ひします。私は、2つの情報についての制限についてお聞きしたいと思ひます。

1点目は、先ほど有名人なりすまし広告についての御説明がありまして、広告についてはよく分かりました。投稿のほう、ツイートのほうはいかがでしょうか。有名人に限りませんが、なりすましの投稿です。それについてどのように対応されているかということをお聞きしたいと思ひます。

もう一つは、政治的メッセージです。政治的メッセージというのはどんなものかといひますと、それを読む人の政治思想であるとか心情に影響を与えるようなメッセージです。例えば、日本の特定の人あるいは特定の団体が、日本の国益を害するようなことをしているというものであったりとか、あるいは、特定の外国あるいは外国の民族が、日本にとって脅威であるというようなメッセージ、そういったものについて、これは広告の場合とツイートの場合と両方ありますけれども、何らかの制限をされているでしょうか。

制限をしていないということであれば結構です。制限をしているということであれば、そういうものはヘイトスピーチに当たる場合には制限しているとか、真実でない場合には制限しているとか、あるいは、皆さんに等しく出すことはするけれども、行動ターゲティング広告では出さないとか、一部の人を選び出して出すことはしないとか、何かお考えがあれば教えていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

【X (Nick氏)】 それでは、まず私のほうから、今の先生の御質問いただきました、特に大きな概要のところから御説明をさせていただきたいと思ひますけれども。

こういった政治的なメッセージであったり、ここにも実はなりすましであるとか、あるいは、実際には関係のない政党との関係者だというような偽ったIDを持っているんものを投稿してくるということも含めてということになりますけれども、何らかの政治的な意味を持ったもの、こういったものについては、例えば3つありますけれども、1つは、国家的なレベルで、例えば、トロールファームを使ってフェイクアカウントを大量に作成して、こういったことを投稿してくる、こういったものが検知された場合については、このトロールファームの関連のアカウントについては止めるということを行っておりますし、あるいは、これが明らかになりすましであって、本人ではないということが分かったような場合についても、このアカウントについて削除するというところを行っております。

また、これは実際にはなりすましではないんですけれども、先ほどお話ししたような何らかの存在するような政党であったりグループと関係のないアカウント、投稿者であるにも

かかわらず、いかにもそれをかたるような形で何かを投稿しているような場合についても、ディセプティブID、欺瞞的なID、これを検知した場合についても、削除するというところも行っております。ただ、これはいろんな形で迂回するというようなことを先方もやってきますので、こういったものについては順次対応していくということ、そして、しっかりと我々のプラットフォームを守っていくということを行っています。

もう一つは、これはやはりその時々、特に地政学的な、現状で言えば中東情勢であるとか、地政学上のトレンド等に関連したものについても、これはリアルタイムで対応するように全力を挙げておりまして、一例といたしましては、10月7日を起点といたしまして中東での情勢が緊迫した中で、これはハマスのいろんな行動に端を発したものになりますが、それ以降、実際のアカウトとして対応したものが80万アカウントあります。これは、今お話しした一連のもの、それから、あるアカウントのマニピュレーションに当たると考えたもの、これだけでも80万、10月7日以降対応しているという形になっておりますけれども。

このような形で複層的に、今先生のお話のあった政治的なメッセージ、あるいはこれに関連するなりすましであったり、偽のID、あるいはtrolleefarmを使った偽のフェイクアカウント、こういったものについては鋭意対応しているというのが現状でございます。

【X（金子氏）】 すみません。なりすましに関してなんですけれども、こちら、そもそも弊社のポリシーで禁じておりまして、具体的には、他者の身元を示す2つ以上の要素を使用した場合というのは、これはポリシー違反という形になります。

ちょっと入り組んだ話なんですけれども、極論、Xのアカウントを持っていない方が、誰かに自分の名前と写真ともろもろを使ってアカウントを作られて嘘の投稿をされているみたいなことがあった場合、こういったものもポリシー上、ポリシー違反として対応することが可能になっております。

あと、先ほどNickのほうからありました話に関連しますと、グレイバッジという国の機関からのアカウントに関しては、グレイのバッジをつける形で、なりすましをされにくくするというような新しい対応策等も昨今御用意しております。

【森構成員】 分かりました。ありがとうございます。

【宍戸座長】 ありがとうございます。

既にいただいた時間を超過しておりますし、アメリカは日本と違って大変遅い時間であるということも承知しているのですが、実は、まだ4人の構成員が質問を希望されております。非常に早く済ませたいと思いますが、御対応いただくことは可能かどうか、通訳の方、

聞いてみていただけますでしょうか。

【X (Nick氏)】 もちろんです。少し回答が、今までのように雄弁には回答できなくなってくるかもしれませんが、ぜひ御質問をお願いいたします。

【宍戸座長】 ありがとうございます。大変に助かります。

ということですので、極めて簡潔に御質問をお願いいたします。

後藤構成員。

【後藤構成員】 ありがとうございます。後藤と申します。

研究開発、特に外部での研究開発の見方について教えていただきたいと思います。

旧Twitter社が10年以上前からいろいろなデータを公開していることによって、世界中の大学等で大変すばらしい研究成果が上げられて、それが世界のSNSの健全化に大きく貢献していると。これは旧Twitter社のおかげだと、貢献だと認識しております。それについて、X社自身はどう見ていらっしゃるかをお聞きしたいということが一つ。

それから、それに関連して、1年前にAPIの方針が変わった後、研究開発の方針に変更があったのか。特にポジティブに捉えている場合は、どのような研究テーマ、また、どのようなフォーメーションを今後も期待していらっしゃるか、教えてください。

以上です。

【X (Nick氏)】 ありがとうございます。

今お話しいただきましたように、長期的に学术界の皆様方とも連携していくということについては、Twitterの時代から、現在も引き続き我々の一つの基本的な考え方として持っているものでございます。

その中で、今APIのお話もあったんですが、APIに関しましては、例えば、今取り組んでいるものとしては、無償でAPIを公開していく。ここについては、公共サービス、公共交通サービスなどが一例になると思いますけれども、こういった部分については、SNSと公共の交通サービスが連携していけるような形で、無償でこちらを公開するというのを、もう既にここについては実施させていただいております。

これなどが一例になりますけれども、これは日本の皆様方にも同様なんですけれども、こういった形で、我々のSNSとコミュニティの公のサービスが連携するということによって、さらに様々なものが改善していただくとというのが一つの方向性、これについては無償で御提供しているということを行っております。

それから、もう一つ申し上げておきたいのは、これは今AIPのお話もあったわけですが

れども、Twitterについては、これは少し財務的な状況もありまして、そういったこれまで変遷、経緯があったということは否めない分はありますけれども、今こういったものはまた状況が変わってきているということもありますので、改めてまた長期的な取組を行っていきたいと思っています。

APIだけではなくて、あと2点、データソースとして御提供しているものもお話し申し上げておきたいと思います。

1つは、コミュニティノートのデータでございます。こちらはアーカイブという形で、これは研究をされていらっしゃる研究者の皆様方にも公開しております。御活用いただくことが可能ですし、もう一つは、アルゴリズムのソースコードについてもGitHubから、これは先ほど一回御案内いたしましたけれども、ダウンロードしてアルゴリズムを御利用いただける状態になっています。

この手のアルゴリズムで、こういう形でダウンロードしていただいて利用していただけるという体制にしているのは、恐らく我々だけではないのかなというふうに自負しておりますけれども、こういったAPI以外のものについても、鋭意、我々のできる範囲の中で、データ、情報等については公開してまいりたいと考えております。

【後藤構成員】 ありがとうございます。

【宋戸座長】 ありがとうございます。

山本構成員はメールで質問を送っていただけるということで、議事進行に協力いただいて申し訳ありません。

それでは、質問は、繰り返しになりますが、簡潔に1問でお願いします。

奥村構成員、お願いします。

【奥村構成員】 ありがとうございます。時間の延長に協力していただいて、ありがとうございます。

考えていた質問は、実はコンテンツモデレーションについて生貝先生と丸かぶりをしたんですが、せっかくの機会ですので、コミュニティノートの透明性について、もう少し細かいことを聞きたいと思います。

そもそも応募した人の中で、誰が採用されているかの基準のようなものがなぜ公開できないのかということです。私の知人のほとんどはプレミアムの支払いをした人に限られておりますけれども、そのような選好基準みたいなもので、何か追加で公開できるものはないのでしょうか。

もう一つは、コードを公開しても、一般ユーザーに理解できない人たちがいますが、その人たちのリーチというのは十分だと思いでしょか。

その2点です。ありがとうございました。

【X (Nick氏)】 まず最初の御質問なんですが、こちらのコミュニティノートの2の参加についての基準というのは、明確な基準を持っております。決して何らかの形でペイドユーザーだけということではもちろんございませんので、こちらは今チャットのほうにリンクを張らせていただいておりますので、そちらのページにアクセスをしていただきましたら、詳しい基準、条件等が記載しておりますので、ぜひ御参照いただきたいと思います。

2点目のアルゴリズム、コードは、ダウンロードできても、多分、一般のユーザーにとってはこれが分からない、専門的なものだという御指摘でございますけれども、これはおっしゃるとおりだと思います。タブについても、フォーユーというものと、アカウントをフォローのタブがありますけれども、ただ、その間の部分というのは必要なのかもしれませんが、確かに、今のアルゴリズムのコーディングにつきましては、ここはそこの専門家の方であったり、あるいは、そこに関連するエンジニアの方向けということになると思いますし、そういった意味で、現状ではそのようになっているという認識でございますけれども、御質問の御意図というのはよく理解できているというふうに考えております。

【奥村構成員】 ありがとうございます。

【X (金子氏)】 付言させていただきたいんですけども、このプロダクト、コミュニティノートの担当VPが、どういった課題感がもし考えられるのかみたいところで、各マーケットによってひょっとしたら違う状況があるのかもしれないというようなことも言っておりますので、何か気になる箇所とかありましたら、その辺りを例えば調査をしていく等、何らかいりろ御教示いただけると非常にありがたいなと思っております、その部分で、弊社側でも御協力できることがないかなというふうに模索しておりますので、今後も連携させていただければと考えております。

【奥村構成員】 ありがとうございます。

送っていただいたリンクは読んだ上で、書いていないことをお聞きしたつもりなんですが、追加で改めてまたいろいろお聞きしたいと思います。

ありがとうございました。

【宋戸座長】 それでは、最後に、落合構成員、1問お願いします。

【落合構成員】 ありがとうございます。

そうしましたら、時間を延長して御説明ありがとうございます。私のほうは2点ございますが、1点は後で会議後にお答えください。

特に災害発生時などの非常事態において、新聞や放送等の伝統メディアのコンテンツやファクトチェック記事、そのほかの信頼性の高い発信源が発信する情報を優先的に表示するといったような取組は行われていますでしょうか。また、今後、そういう方法を利用することをどう思われますでしょうか。

後で回答していただきたい質問が、広告を配信する先の第三者運営メディアについて、偽・誤情報を発信・拡散するような悪質なサイトであった場合に、広告主から当該サイトへの広告掲載を停止するように求めるような窓口はありますか。ある場合には、対応フローと申立て件数、対応件数などの運用状況を教えてください。

以上です。

【X (Nick氏)】 ありがとうございます。

まず結論から申し上げますと、我々のポリシーというのは、本日も申し上げておりますように、例えば、フェイクであったり、あるいはなりすまし、ID自体が偽っている、こういったもの以外については、基本的に、ほかのアカウントを優先的に掲載、何らかの形で優遇しているということは一切行っておりません。ただし、一つ、政府関係、公共の政府、あるいは、警察、消防等、災害の場合については、こういったものについては、特別なグレーバッジを提供するという形で閲覧していただけるようにしているということはしておりますけれども、それ以外については、特にファクトファインディングの団体であったり、大手のメディア様であったり、こういったところを特に優先しているということは一切ございません。

例えば、先ほどコミュニティノートのお話もありましたが、コミュニティノートの中で、実際に情報を検証したりということで、こういったことで、ボランティア、任意でいろんな形でこういう情報提供したり、チェックをしている、ここは実は既存のそういうファクトチェックをする団体よりも早かったりといったことも実際に発生しているということもあります。

ですので、結論から申し上げますと、そのような形で、特に大手のメディア、あるいはファクトチェッカーの団体様であったり、そういったところに特別な優先度を御提供しているということはありません。

【宍戸座長】 ありがとうございます。

すみません。私の進行が大変に悪くて、大変長い時間をXの皆さんに取っていただいたことを、まずおわびしたいと思います。

しかしながら、日本において非常に利用者が多く、また、SNS上の、あるいは日本のデジタル空間における情報流通において大変重要なプレーヤーであるXの現時点での考えをお聞きできたというのは、非常に貴重な機会だったと思っております。

今年能登であった地震に関連するものも含めて、日本における偽情報、あるいは情報流通一般の問題について情報提供いただいたことにも感謝申し上げます。

この後、構成員から追加での質問などもあると思います。また、今日お持ち帰りいただいて、お答えいただく質問もあると思いますが、それらへの御対応、併せまして、引き続き日本の利用者、また、日本社会、日本政府との対話に御協力いただければと思っております。

本日はありがとうございました。

【X (Nick氏)】 Thank you. ありがとう。

【宍戸座長】 ありがとうございました。

【X (金子氏)】 ありがとうございました。

【宍戸座長】 予定の時間よりも30分延長してしまいまして、構成員の皆様にも大変御迷惑をおかけいたしました。追加の御質問がございましたら、事務局にお寄せいただくようお願いいたします。

最後に、事務局より連絡事項のほうをお願いいたします。

【高橋係長】 ありがとうございます。

次回の会合につきましては、別途事務局から御連絡差し上げるとともに、総務省ホームページに開催案内を掲載いたします。

以上です。

【宍戸座長】 ありがとうございました。

本日、それから昨日の2日間にわたりまして、5つのプラットフォーム事業者の方から、デジタル空間における情報流通の健全性の確保、とりわけ日本社会におけるその問題についてヒアリングをさせていただき、また、構成員の皆様から非常に多くの御質問とコメントをいただきました。これらは、本検討会の一つの山場であったと認識をしておりますので、事務局と私のほうでその成果、やり取りを、追加での御質問と御回答を含めて整理させていただき、引き続き、この検討会での議論の基礎にさせていただきたいと思っております。

以上をもちまして、デジタル空間における情報流通の健全性確保の在り方に関する検討

会第15回会合及びワーキンググループ第11回会合の合同会合を閉会とさせていただきます。

本日も誠にありがとうございました。これにて散会です。